

# 従属 LU および DLUR/DLUS

## 目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[DLUR/DLUS の基礎](#)

[DLUR/DLUS セッション サービス拡張](#)

[DLUR/DLUS ルーティング サービス](#)

[DLUR/DLUS サンプル パイプ アクティベーション](#)

[自動ネットワーク シャットダウン](#)

[SSCP テイクオーバー：ネットワーク稼働時](#)

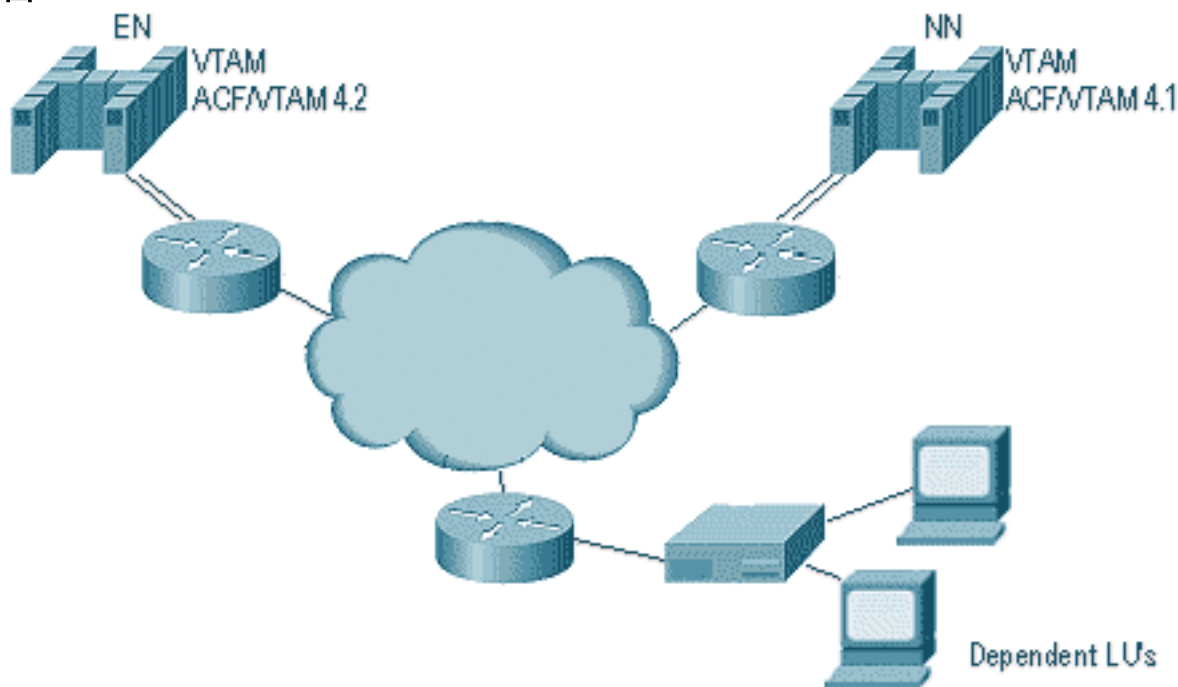
[SSCP テイクオーバー：停止時](#)

[SSCP テイクオーバー：テイクオーバー実行時](#)

[関連情報](#)

## 概要

図 1



最初は、拡張分散ネットワーク機能 ( APPN ) は、論理ユニット ( LU ) 6.2 接続を使用するピアツーピア接続セッションだけをサポートしていました。ただし、APPN は、ネットワークが従来のシステム ネットワーク アーキテクチャ ( SNA ) トラフィック ( LU 0、LU 1、LU 2 など ) をサ

ポートできる場合にも実行可能です。

APPN では、セッションのプライマリ エンドとセカンダリ エンドという概念はありません。セッションの開始を選択するエンドポイントがプライマリになり、バインドを送信します。しかし、レガシー SNA トラフィックの場合、セカンダリ エンドはセッションを開始するために仮想記憶通信アクセス方式 (VTAM) を要求します。APPN では、バインドを送信できないノードの概念はありません。したがって、バインドを発光できない従来のセカンダリ LU に対する特別なサポートが必要です。

従属 LU リクエスタ/サーバ (DLUR/DLUS) は、APPN ネットワークの従属 LU の問題を解決します。DLUR/DLUS では、サーバは VTAM 4.2 で実装され、リクエスタはネットワーク内のネットワーク ノード (NN) またはエンド ノード (EN) になることができます。

## 前提条件

### 要件

このドキュメントに関する固有の要件はありません。

### 使用するコンポーネント

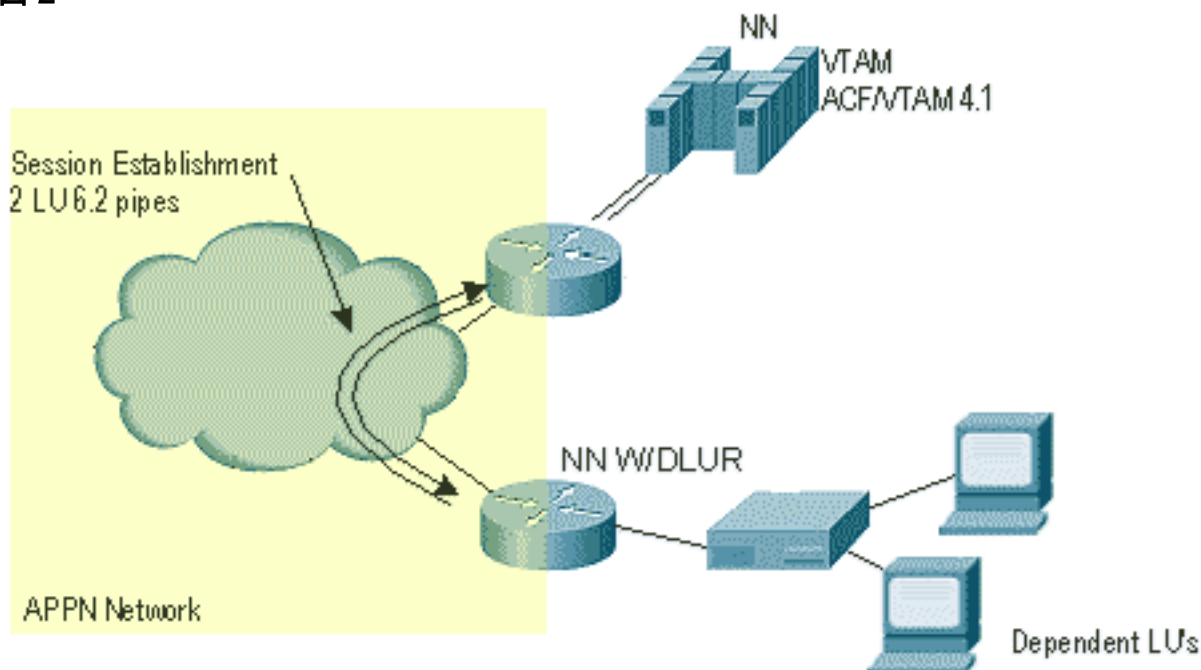
このドキュメントは、特定のソフトウェアやハードウェアのバージョンに限定されるものではありません。

### 表記法

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコ テクニカル ティップスの表記法](#)』を参照してください。

## DLUR/DLUS の基礎

図 2



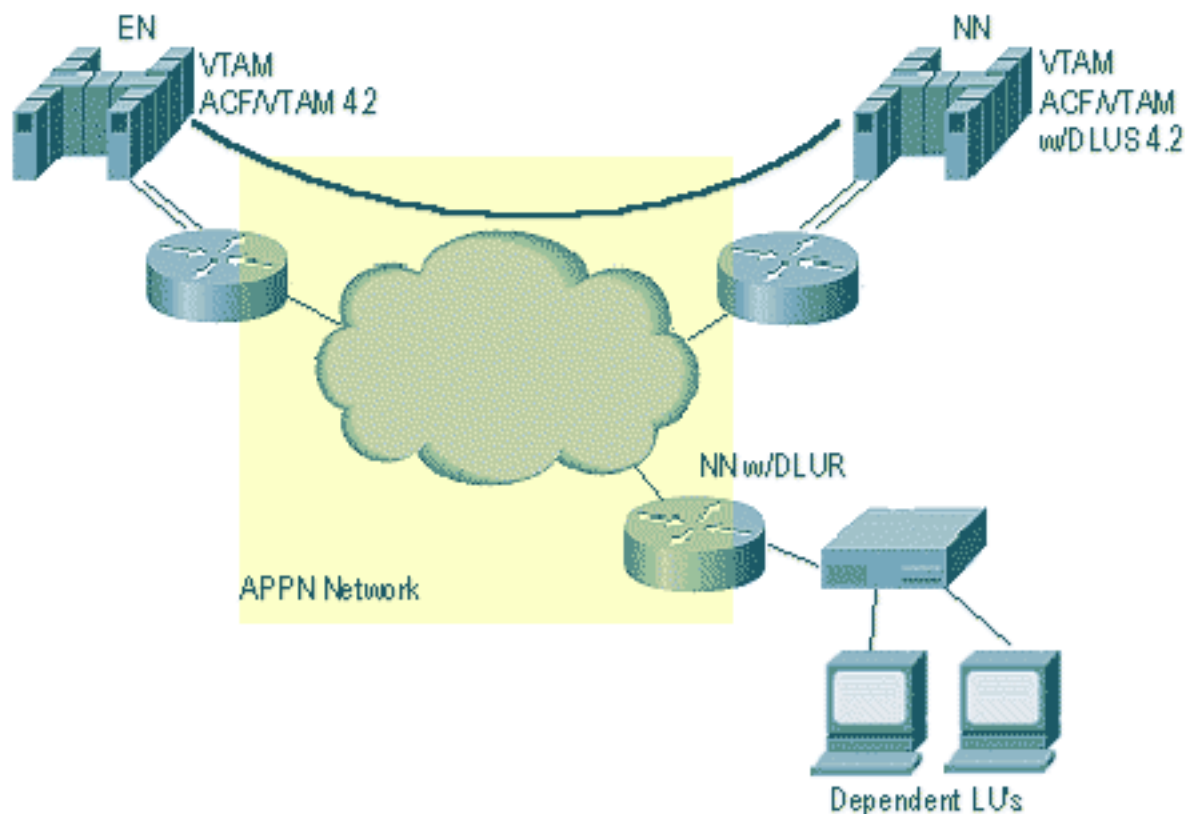
LU 6.2 セッションのペアは、DLUR と DLUS 制御フロー ( アクティブ化 LU、非アクティブ化 LU、アクティブ化物理ユニット ( PU )、非アクティブ化 PU、LOGON、INITIATE など ) の間で確立され、トラフィックは DLUS と DLUR 間のこれらのセッションを経由して流れます。DLUR は、適切なリソースにメッセージを渡します。

セカンダリ従属 LU ( DLU ) は、開始要求を DLUR に送信することでセッションを開始できます。DLUR は、それを LU 6.2 パイプの 1 つに送ります。

セッション要求が流れたら、DLUS と DLUR との通信は完了です。

## DLUR/DLUS セッション サービス拡張

図3



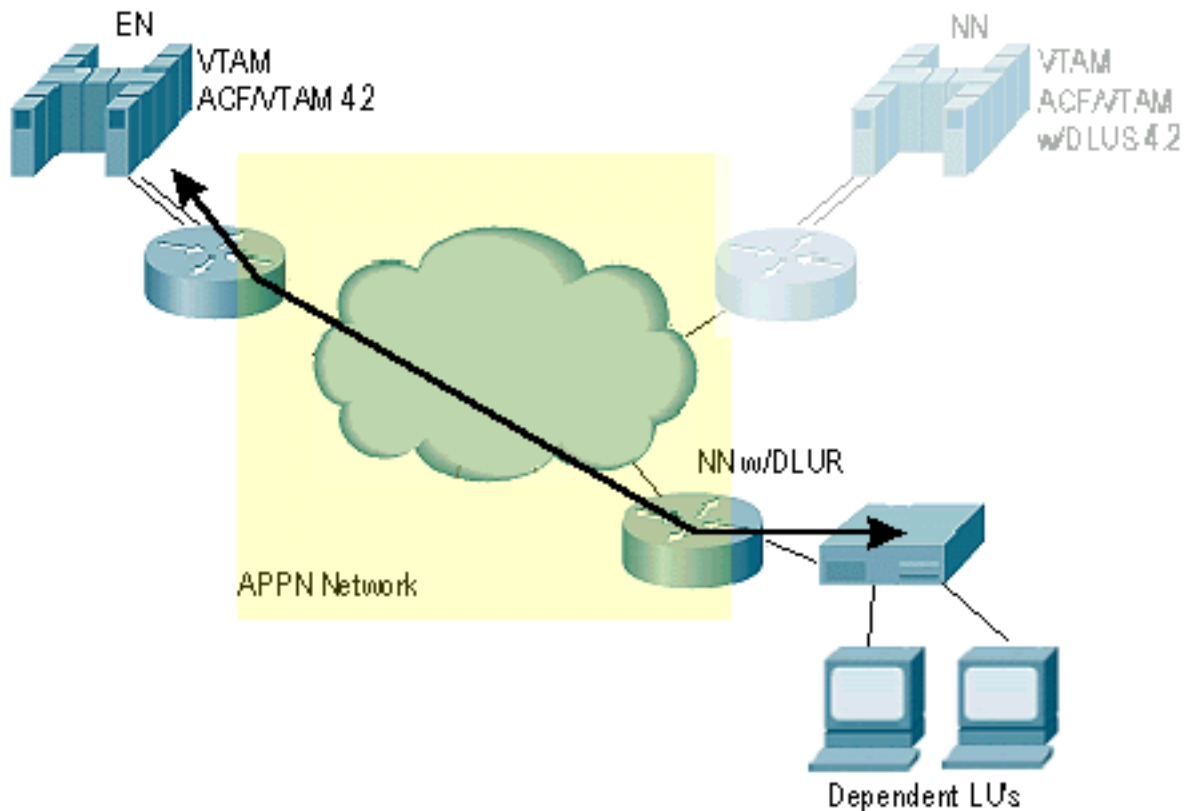
VTAM/DLUS がセッション要求を受信すると、VTAM はアプリケーションの場所を特定し、CDINIT-LOCATE 要求をアプリケーション ホストに送信して、バインドをセカンダリに送信するよう要求します。

APPN VTAM のこのサポートは、セッション サービス拡張として知られ、レガシー SNA セッション サービスが APPN に登録されたことを示します。

セッション サービス拡張は、セッションパートナーが利用可能になるまでサードパーティ セッション開始およびキューイングをサポートするのに加え、セカンダリによって開始されたセッションをサポートします。

## DLUR/DLUS ルーティング サービス

図4

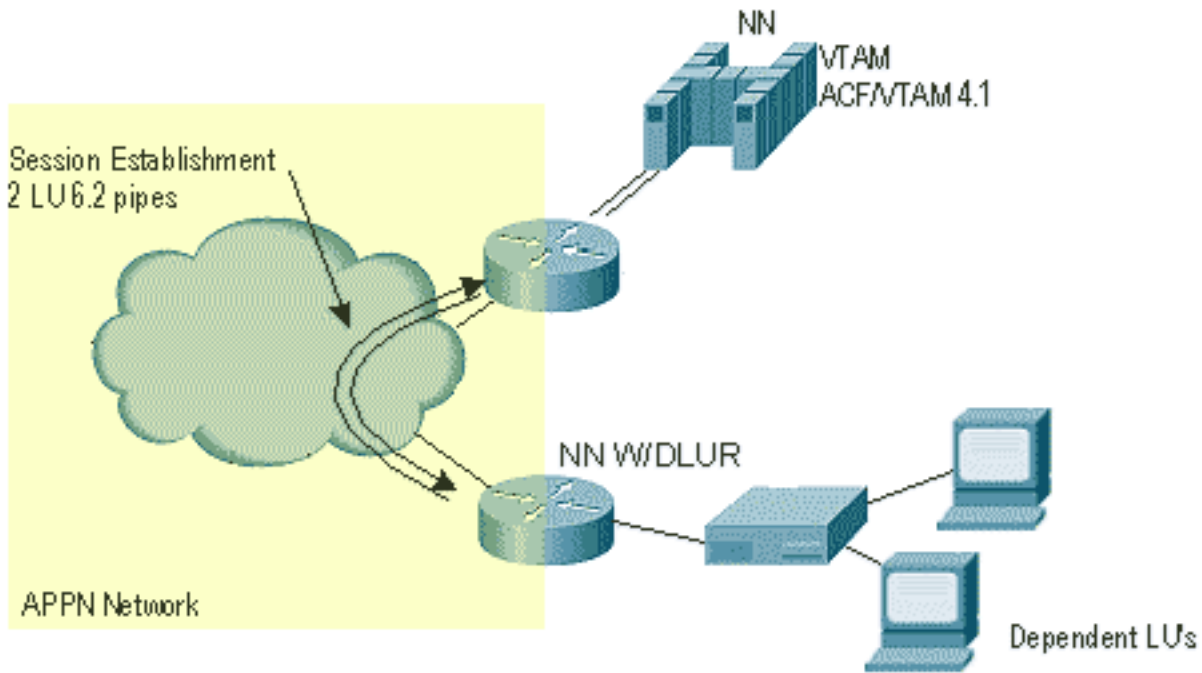


レガシー LU にバインドを送信するようにアプリケーションに通知されたら、バインドは APPN ネットワークを経由して送信されます。これは、カプセル化されません。レガシー SNA トラフィックおよび APPN トラフィックは同じ SNA ヘッダーを使用し、APPN ネットワークで共存できます。

VTAM はセッション開始を認識しますが、セッショントラフィックは VTAM またはその接続されているチャンネル インターフェイス プロセッサ (CIP) を経由する必要はありません。APPN アルゴリズムを使用して、アプリケーション ホストにネットワーク サーバ機能を提供する NN は、適切なサービス クラス (CoS) を提供するネットワークを通じて最適パスを選択します。

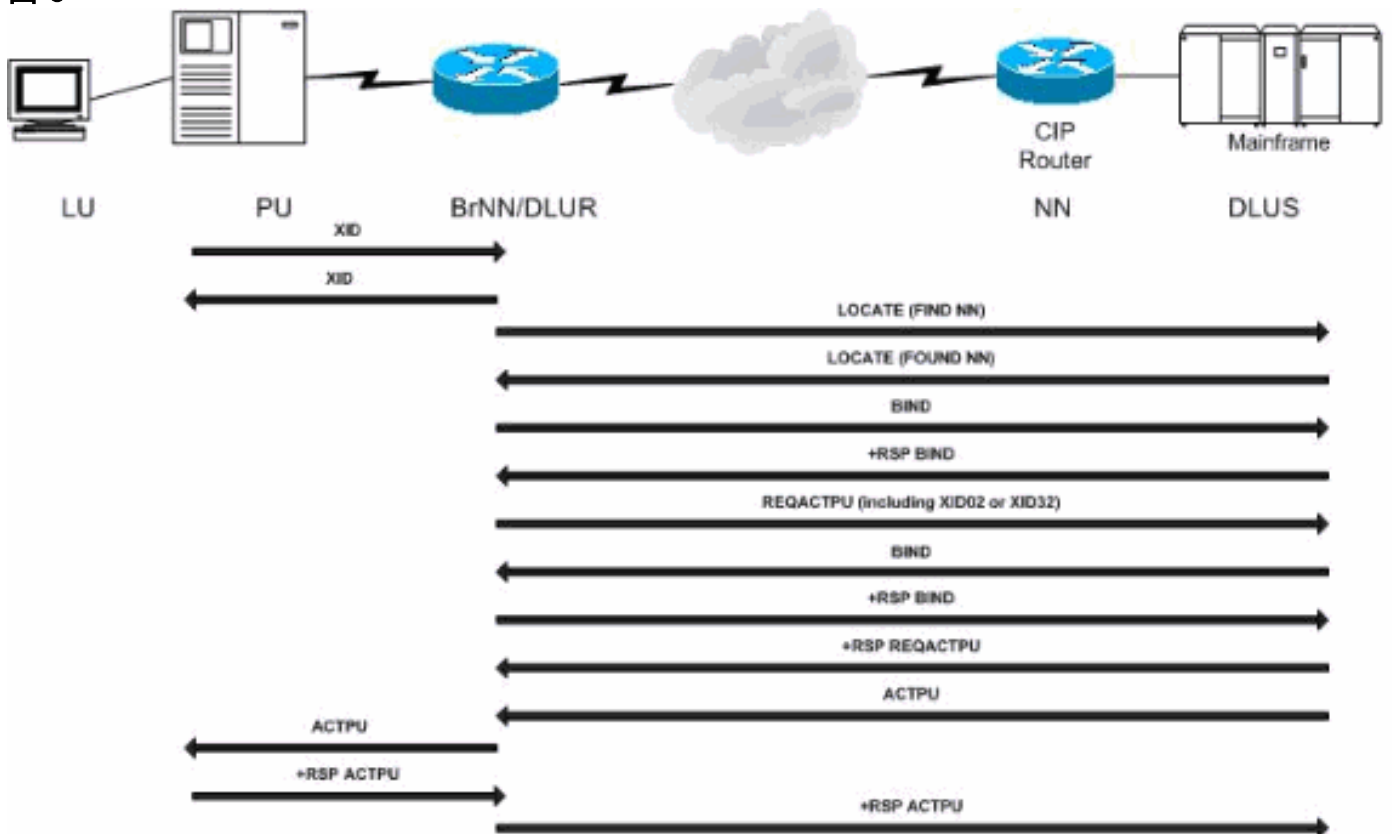
## DLUR/DLUS サンプル パイプ アクティベーション

図 5



交換識別子 (XID) を受信すると、DLUR は、物理ユニット (REQACTPU) をアクティブ化する要求を DLUS に送信することで、システム サービス制御ポイント (SSCP) に対してそのサービスが要求されていることを通知します。続けて、DLUS は ACTPU 要求を発行します。

図 6



このフローでは、ブランチ ネットワーク ノード/DLUR ( BrNN/DLUR ) はダウンストリーム PU から XID を受信し、PU は DLUS から SSCP サービスを要求するように DLUR に通知します。すべての XID02 または XID32 で ACTPU 要求ビットが設定され、REQACTPU が送信されます。「パイプ」がアクティブでない場合、最初に「検索」され、バインド要求が送信されてパイプが開始されます。

DLUS は、肯定応答 +RSP REQACTPU と、続けて ACTPU 要求を返します。

## 自動ネットワークシャットダウン

DLUR は、ネットワーク制御プログラム ( NCP ) によって提供される ANS サポートと同様の自動ネットワークシャットダウン ( ANS ) サポートを提供します。ANS = CONT が指定されて PU がアクティブ化される場合、既存の LU-LU セッションはパイプ終了時に保持されます。

DLUR は、従属デバイスからの SSCP-PU/LU トラフィックを拒否します。

従属デバイスの以降のアクティブ化に応じて、DLUR は LU-LU セッションを終了する場合があります。

## SSCP テイクオーバー：ネットワーク稼働時

図 7

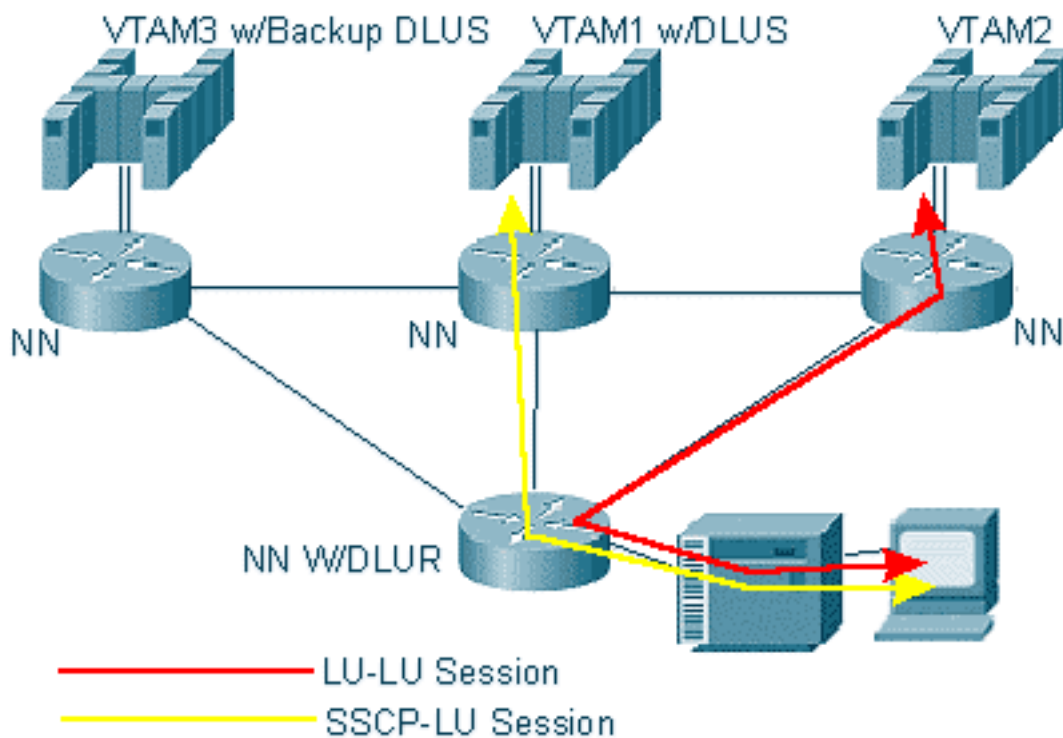


図 7 では、すべてのセッション ( SSCP-PU、SSCP-LU、および LU-LU ) が確立され、データが LU-LU セッションで流れています。

## SSCP テイクオーバー：停止時

図 8

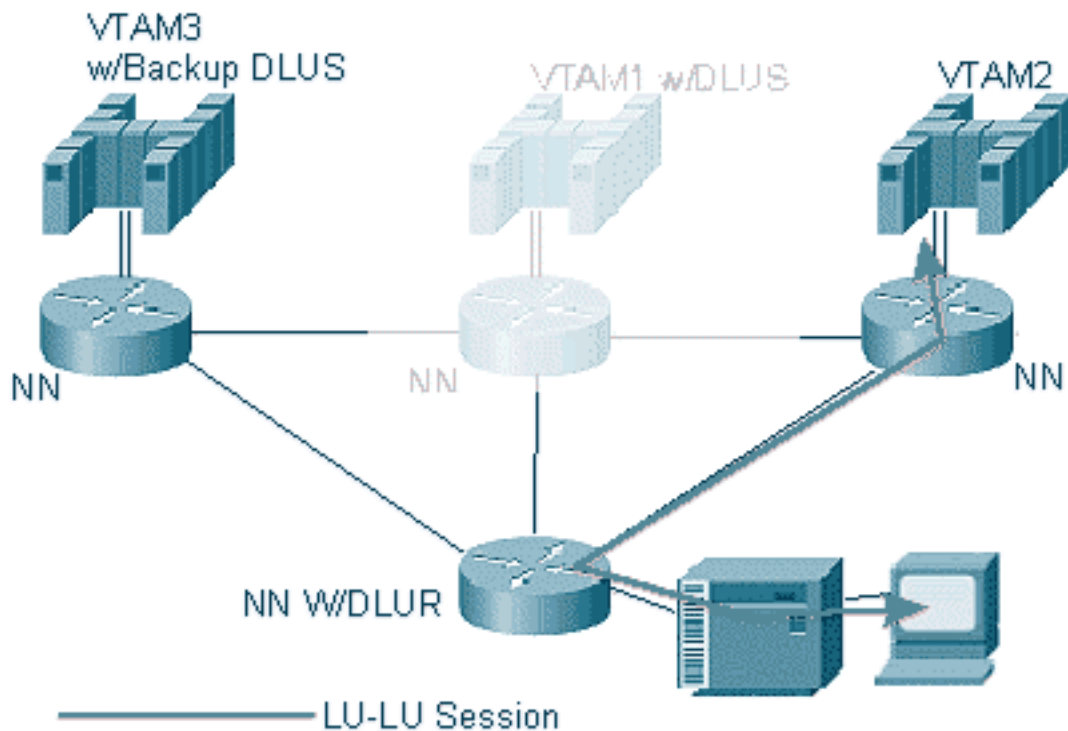


図 8 では、ネットワーク停止が発生し、DLU-DLUR パイプが破壊され、SSCP-PU および SSCP-LU セッションが中断されます。

LU-LU セッションは、影響を受ける Cisco CIP NN ルータを経由しないため継続します。

## SSCP テイクオーバー : テイクオーバー実行時

図 9

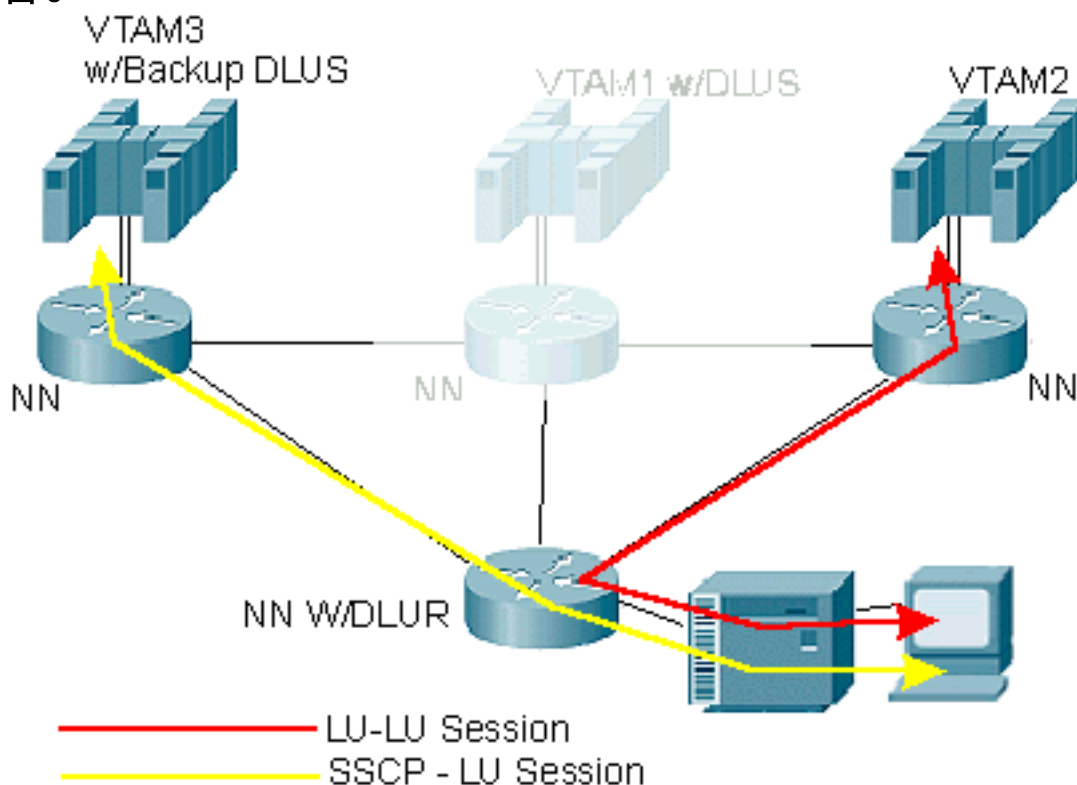


図 9 では、バックアップ DLUS はテイクオーバーを開始し、パイプが確立され、リソースがアクティブ化され (ACTPU、アクティブ化論理ユニット [ACTLU])、DLUR が ACTLU 応答でセッシ

セッション情報 ( プライマリ論理ユニット [PLU]、LU1 ) を送信します。

セッションは、新しい SSCP を通じて再確立されます。後続の LU-LU セッションにより、DLUR から VTAM3 へのセッション認識が発生します。

リカバリが VTAM1 で発生した場合、ギブバックが発生し、SSCP-PU および SSCP-LU セッションは VTAM3 で非アクティブ化され、VTAM1 によって再アクティブ化され、LU-LU セッションを中断せずに元の設定を復元します。

## **関連情報**

- [技術サポート](#)
- [製品のサポート](#)
- [テクニカルサポート - Cisco Systems](#)